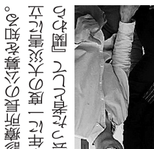
被災地の歯科診療所に

雄勝

研究課題

◎宮城県石巻市の中心部から車で約30分。海沿いの雄勝地区は、東日本大震災の津波で壊滅的な状態だ。今年4月、ボランティアとして現地を訪れた歯科医師の目に映った被災地の現状とは。



◎雄勝地区のランドマークとなっていた大型の建物。現在は、がれきの撤去が進められている。

◎仮設住宅に住む被災者が、ボランティアの歯科医師に治療を受ける。

今年4月、東日本大震災の被災地を訪れた。宮城県石巻市の中心部から車で約30分。海沿いの雄勝地区は、東日本大震災の津波で壊滅的な状態だった。

雄勝地区は、明治29年と昭和8年の大津波で、それぞれ人口の約1割の住民を失っている。2011年3月11日の大津波で、人口4,600人のうち、約1,000人が亡くなり、約500人が行方不明になっている。

今回、私が参加したのは、日本歯科医師会の災害対策本部が、被災地の歯科医療の状況を調査するために、ボランティアを募集したことによるものだ。

雄勝地区に到着すると、まず目に飛び込んでくるのは、がれきの撤去が進められている様子だ。がれきの撤去は、ボランティアの人たちが、手作業で行っている。

雄勝地区の人口は、震災前の約3分の1に減少したという。人口が減少したことで、歯科医師の数も、震災前は、地区内に3人いたのが、今は1人しかいない。

雄勝地区の歯科医師は、震災で、自宅と診療所を失ってしまった。現在は、石巻市内に、仮設の診療所を構えている。

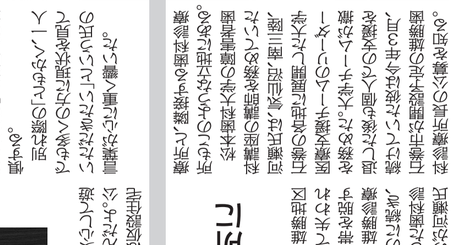
今回、私が参加したのは、日本歯科医師会の災害対策本部が、被災地の歯科医療の状況を調査するために、ボランティアを募集したことによるものだ。

雄勝地区に到着すると、まず目に飛び込んでくるのは、がれきの撤去が進められている様子だ。がれきの撤去は、ボランティアの人たちが、手作業で行っている。

雄勝地区の人口は、震災前の約3分の1に減少したという。人口が減少したことで、歯科医師の数も、震災前は、地区内に3人いたのが、今は1人しかいない。

雄勝地区の歯科医師は、震災で、自宅と診療所を失ってしまった。現在は、石巻市内に、仮設の診療所を構えている。

◎雄勝地区の中心部を走る唯一の道路。がれきの撤去が進められている。



◎雄勝地区の仮設住宅。被災者の生活は、まだ、厳しい。

◎雄勝地区の仮設診療所。ボランティアの歯科医師が、被災者の治療を行っている